

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果の分析【第3学年(第9学年)】

北区立都の北学園

国語

結果の分析	授業改善の視点	具体的な授業改善案
平均正答率は東京都を2ポイント、全国を4.9ポイント上回った。 学習指導要領の内容別の比較では、ほとんどの項目で東京都・全国を上回っているものの、「書くこと」の項目のみ東京都を3.1ポイント、全国を0.5ポイント下回った点が目立った。 「思考力・判断力・表現力」を測る問題を個別に見た場合、「読むこと」で2問、「書くこと」で1問、「話す・聞くこと」で1問の正答率が低かった。	「思考力・判断力・表現力」の項目「書くこと」は、物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図の説明として適切なものを選択する問題であった。実際に自分が書くことを想定しながら問題を考える必要があった。「読むこと」は本文中に示される例の役割をまとめた文の空欄に入る適切な語を選択する問題と、本文中の図の役割の説明として適切なものを選択する問題であった。語彙を適切に使用することと、非連続型テキストの読解に課題があると考えられる。	「書くこと」は様々なテーマを与えて実際に書く機会を増やすようにする。書いた内容を生徒相互で読み合ったり添削したりする取り組みを実施し、書くことの経験を積ませていく。 「思考力・判断力・表現力」の項目「読むこと」については、教科書以外の発展的な説明的文章を用いながら図表等の非連続型テキストと連続型テキストを照らし合わせながら読む練習を充実させていく。

数学

結果の分析	授業改善の視点	具体的な授業改善案
平均正答率は東京都を13ポイント、全国を17.5ポイント上回った。全ての項目で東京都・全国を上回っており、特に「A数と式」の項目では東京都を22.4ポイント、全国を27.5ポイント上回った点が目立った。 問題別集計結果からも、ほとんどの問題で東京都、全国平均を上回っていることが見取れるが、「Dデータの活用」の記述式の「思考・判断・表現」の問題では、東京都の平均を1.5ポイント下回る結果となった。	唯一東京都の平均を下回った問題は「複数の集団のデータの分布の傾向を読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる」問題であった。箱ひげ図を正しく読み取ることと、説明することに課題があると考えられる。	授業の初めに復習として、箱ひげ図をはじめとしたデータの比較の問題を1問扱い、学力の定着を図る。また、説明を要するような「思考・判断・表現」の問題を授業の中で多く取り扱い、説明をすることの経験を積ませていく。